

親子ぼうさいキャンプ～終了報告～

9月28日～29日愛川ふれあいの村にて「親子ぼうさいキャンプ」を開催しました。今回のテーマは「もしもの時のシミュレーション」。様々な状況を想定し、キャンプを通して防災について考えてもらう1泊2日です。

プログラムは大きく帰宅困難者体験、避難所体験、サバイバルクッキングの3つ。防災キャンプと聞くと少し堅苦しく、難しいように感じるかも知れませんが、ふれあいの村ならではの切り口でキャンプを楽しみながら、「もしもの時」に役立つ防災テクニックを学んでもらいました。



初日はオープニング後、帰宅困難者体験「歩かなければ帰れま10(てん)」に出発です。もし自分の足で歩いて家まで帰らなくてはいけないとしたら…家族は、自分はどれ位の距離が歩けるのかをチャレンジしてもらいました。



ふれあいの村からスタートしてぐるっと一周約10(てん)km。ショートコースもあったのですが、参加家族のみなさんのモチベーションが高く、全家族とも10kmコースに挑戦しました。年齢や家族構成、体の具合と相談し、途中のショートカットを使いながらも全員が完歩を果たしました。最初にゴールした親子は、途中昼食や休憩を挟みながらもなんと3時間を切る速度でした。最後の家族も幼児とお母さんのグループでしたが4時間ちょっとでゴールです。



秋の陽気の中、気持ちよくハイキング気分でも歩けたこともあるでしょうが、それぞれが目的をもって歩けたことが一番の力になったようです。実は子どもよりも運動不足な大人の方を心配していたスタッフですが、ゴールして「疲れたけど、楽しかった。」「正直10kmを歩くのは無理だと思っていた。」との声を聞くことができ、それぞれ頑張った自分に自信を持てたようです。



さて、夜は避難所体験として自分たちで寝る場所の確保をしてもらいました。もしもの時、体育館や公民館などが避難所に指定されていることが多いのですが、夜寝るときなどはどうしても他人の視線が気になります。そんな時に使用するのが段ボールパーティション。自治体によってはすでに組み立てるだけのものが準備してあるようですが、今回はテレビやおもちゃ、ペットボトルが入っていた普通の段ボールを使ったパーティションづくりを体験してもらいました。



「パーテーション」の言葉通り、スタッフは視線を遮れる仕切り程度の物が出来ればいと想定していましたが、完成した物を見るとすっかり「ハウス」でした。扉がついていたり、屋根があったり、窓や下駄箱、机も段ボール製です。想像した物が形になる楽しさは子どもも大人も変わらないのでしょうね。「キャンプの中で一番楽しかった。」と大人気のプログラムになりました。



段ボールで仕切られただけですが、外気をある程度遮断しつつ、自分たちの熱で空気を暖めます。寝袋や毛布をしていたとはいえ、固い体育館の床で多少の体の痛さはあるものの、全員で朝を迎えることができました。



2日目のメインプログラムはサバイバルクッキングです。ビニル袋で炊くご飯や、長期保存が可能な缶詰を使った料理、水を使わない、火を使わないなど様々な状況を想定し4つのメニューを作りました。「非常時だけどおいしく」をテーマにメニューを作っていたので「おいしい！」と声が聞けてスタッフも大満足。食器も牛乳パックや新聞紙を利用して作成し、もしもの時に備えます。

非常用食材として「アルファ米」の試食もしてみました。家庭内備蓄として置いてはあっても、食べたことがない方がほとんどでしたが、味も良く「これなら食べられる。」と安心したようです。



防災準備となると家庭内備蓄品を揃えたり、何かと「物」を中心に考える方が多いようですが、今回のキャンプでは「心構え」の準備ができました。

キャンプを終え「もしもの時を想定すると『楽しい』という表現は不謹慎ですかね。」と参加者からの声がありました。確かにそうかも知れませんが、状況ももっと過酷で厳しいものになるでしょう。笑うこともままならないかも知れませんが、いざ当事者になったとしても、前向きにみんなで笑いながら復興に取り組みると良いですよ。なので今回は「楽しい」が良いのではないのでしょうか。楽しいと思ってくれたのなら「親子ぼうさいキャンプ」は大成功です！ 文責：まあぼ